

郡上八幡 ゲストハウス まちやど

<http://machiado.info>

郡上八幡にあるゲストハウス「まちやど」。自分の居場所を探して、日本や海外を渡り歩き、この地にたどり着いた女性がつくった宿は、地元民も旅人も気軽に集まり、交流のチャンスが生まれる場所だった。



会社概要

所在地：岐阜県郡上市
八幡町島谷 674-1
業種：宿泊業（ゲストハウス）
創業：2014年4月
従業員数：1名



STEP 1 創業のきっかけ 居場所を探し、たどり着いた郡上

郡上の古い町並みの一角に佇むゲストハウスを切り盛りする木村聖子さん。郡上での宿泊業経営が板に付き、すっかりこの町に溶け込んでいる彼女だが、実は出身が青森県というから驚きだ。

木村さんは高校卒業後、ファッション関係の仕事に憧れ上京するも、働ながらの勉強は予想以上にハードで断念。2年間の英国留学経験を経て再び東京へ。派遣で働きながら、住環境コーディネーターなどを学ぶ学校に通っていたが、時間とお金に追われる生活に心身ともに疲労困憊してしまふ。そこで、友人を頼ってしばらく沖繩でのんびり暮らす経験をした。「沖繩の海で癒されたから、次は山のある景色が見てみたいな」と思ったのが、郡上に来るきっかけだった。

最初は、自然体験インストラクターの仕事に就き、社員寮に入っていたが、「もつと地元の人と触れ合いたい」という思いを持って木村さんは、その後に移った自宅古民家の1階の居間を共用スペースとして開放し、地元の人たちと食事会などを開く場所として活用することにした。するとそこには郡上をもっと盛り上げたいと思っている人たちが、さまざまな情報が、自然

に集まるようになっていった。

「都会の喧騒を逃れ、田舎で生活したいと考えている人たちにとって、名古屋から約1時間で来ることが出来る郡上は魅力的な場所です。だけど、現状は、そういう人たちが単身で短期間、気軽に住むことが出来る場所があまりに少ない。私はこれまで、東京やイギリスなどで、多様な暮らし方をしてきましたが、それができたのは、各々の場所に、下宿、居候、シェアハウス、ゲストハウスなどさまざまな住まい方を提供してくれる懐の深さがあったからです。身をもって、暮らし方の選択肢がたくさん用意されていること、ありがたみを知っていましたし、次は自分がこの場所で、人の手助けをする番なんじゃないかと思っただけです」

築40年の物件に空きが見つかり、日本政策金融公庫からも資金調達を受けることができた。彼女を後押しするムードは強く、内装工事やインテリアデザインなど各方面からのサポートも多かった。こうして、2014年4月、「まちやど」は開業を迎えた。

STEP 2 事業スタート

郡上にも「家」があるような感じで滞在してほしい

全国にゲストハウスと呼ばれる宿はたくさんあるが、ここ「まちやど」は

STEP 3 今後の展望

都会と郡上の人をつなぐ
そんな役割を担いたい

木村さんの元には、移住相談に訪れる人も多い。そういった人たちの役にも立ちたいと考えた彼女は、今年6月から、郡上市交流移住促進協議会「ふるさと郡上会」にも所属し、現在は宿泊業と二足のわらじで、より一層都会との交流事業にも力を入れ始めた。

「私自身が過去に同じ経験があるので、都会の生活に行き詰まりを感じている方の話はまだで自分のことのように。都会と郡上の人、両者のニーズを聞き、お互いが良いかたちで郡上暮らしを送れるように力を注ぐことが今の私の役割なのかなと考えています」
彼女は、人生も住まい方も選択肢はさまざまあっていいという前向きなメッセージをここ郡上から、全国に向けて発信し続けている。

Point of note

■ 郡上に増える若者移住者

ここ数年で郡上八幡の市街地には、若い移住者が運営する古民家を利用した店が立て続けに誕生している。「まちやど」の玄関に飾られている郡上踊り下駄は、近所に今年6月オープンした「郡上木履」のもの。こちらの店も、愛知県から移住したオーナーが運営しており、木村さんが古民家物件を紹介した縁で開業したのだとか。郡上のヒノキを使った下駄で、郡上の踊り文化を守る一役を担う。移住組が郡上の町中に新しい風を次々と吹き込んでいる。



2015年7月オープン以来、たちまち評判になった踊り下駄。メイドイン郡上で、森林活用もテーマにしている。



宿を始めるに当たり最も手を加えたのが水回り。



内装は同じく郡上移住組のデザイナーが担当。



「まちやど」があるのは、郡上八幡の風情ある町中。



和・洋ドミトリーの他、個室（写真）も完備。

「住むべき場所と住まい方を模索した過去。それがあったから誕生した、人と人が出会う宿」

少し趣が異なる。宿のキャッチフレーズも「シェアハウスみたいなゲストハウス」。郡上にも帰る家があるような感覚で「住んでほしい」と木村さんは考えている。
「もともと自分が宿泊業を始めたのは、都会に住むことだけにとらわれず、週末移住や月一移住など、さまざまな住まい方を模索している人たちと地元の人と交流できる場所をつくりたいと思ったから。単なる宿泊施設で終わるのではなく、郡上の良いところも悪いところもひっくり返して、ここでの生活そのものを体験してもらえるところにしたいと思っているんです」
「まちやど」には、地元の人向けに「シェアメイト会員」という制度があり、会員に「まちやど」を自由に使えるように開放している。また、月に数度、一緒に食事をしたり、和裁教室や地域密着型郡上踊り体験などのイベントを企画するなかで、宿泊者と交流が図れるようにもしている。
「郡上は夏の徹夜踊りが有名で、その時期に一気に観光客が増えるのですが、実は、忙しい夏と比べて、秋冬こそが、ここに住む人々の温かさに触れられるチャンスなんです。『シェアメイト会員』さんと協力して、冬にもお客さんと呼べるイベントをたくさん仕掛けていきたいですね」

Profile



郡上八幡
ゲストハウス
まちやど
オーナー
木村聖子さん

青森県六ヶ所村出身。高校卒業後、東京やイギリスなどで暮らした後、岐阜県へ移住。これまでの経験を集約して2014年4月、郡上八幡にゲストハウス「まちやど」を開業。